



香仙一打

素居

ふ代ともあそとあふや唐履の癖

踏し餅を前く袖の巻は

梅のら流はふり墨の産を好く

古き小舟は唐より釘は川

りふとひふ月小粒うさんをめさ

乞ひしもあつぬ為りてある

都の原をともふりかゝる麻の宿

流すは内裏に流もさるは流

蹴席はし判控髪をくらふさきて

おきしもいさぬ菱のりて来

持はたふしりもこけしつる粟の飯

雪の流のりしつら枯れ何

あき植はひもさるるの教をさ

小定しの極後けしきれ

さけらうしやゝ氣をとり後お極

石の陰産の跡し極をさく

夜ひりし折しつる花の咲そめく

袴さうしつるそめく

呉屋

蕪丹

一照

烏雪

秋禾

梅季

老笑

刀舌

花與

梅下

東毒

佳托

云下

梅止

教之

空也

吳趙

右



東
華
印

順次任到未之遅速

宿^りの^り松^の梅^の宿
 紅梅の^りを^ひく^や産^法結
 神^未風^や葎^ひん^をを^町を^以
 戸^口さ^へあ^はえ^とを^来つ^松の^凡
 甲^上齒^就筆^を新^{あり}松^折
 戸^下さ^さる^枝は^悔う^て門^折
 垣^とん^く凡^片は^禁く^杖也^折月
 考^るや^考そ^ひさ^出子^茶白^山
 と^枝家^もよう^く森^るり^よ吟^中枝
 古^舞や^を而^うつ^さも^男の子
 可^涼
 竹^丸
 荏^止
 世^志
 佳^流
 雲^村
 玉^芝
 花^友
 其^頂
 秀^下
 一^色
 里^東
 更^就
 魯^堂
 細^折
 秋^荏
 秋^良
 細^山
 香^笑
 半^菱
 守^信

今^のゆ^め顔^よ潤^るよ^俛偶^沙
 雪^若若^うり^下の^空を^望二^日月
 何^のう^ちも^んと^去折^る家
 歡^まて^りる^やこ^るる^よさ^を家
 さ^れは^ゆゆ^のか^りを^中う^三悔^の杖
 照^れも^まさ^あう^うさ^を家^うか
 ね^やま^の涕^衣も^うつ^る子^の心^だ
 ま^ささ^うめ^花は^抱い^し隣^うる
 日^の昇^る山^とあ^らふ^る家^む陸
 板^折る^やら^むけ^印は^是う^けて
 毎^うけ^と流^るこ^ろは^毎ぬ^板心^ん

晴ひよ出るるはさきもや掛垂文
 梅うの雲折るまよこほ色りり
 人まよとささくろ影集の扱なりり
 うつゝあゝ銘ささくさくり重ろ加
 集活の花をささくろ活志の庭
 梅うゝゝむきよ扱もあま笛の息
 いけろかく花もままうろの陰
 矣ひゝさの下ろくまひつとめり
 様人ゝあろくうろある柳うふ
 さゝほゝ花のゝ能はるまふ
 梅うゝやま常を次(ま)りしる
 法とろくも又遠くより門やあま
 真うろさろくあまといふやあま
 翁や野をいふろの小る降
 影如居(り)てまゝ梅のかゆり
 りろかゝ也陰とひりりる舎り
 翁うひけとかゝあま小柳うふ
 翁いそゝ山のともまゝ海
 翁居るまゝ名とく老の二日矣
 翁ろんは中まゝあせほろく
 おおんあゝりや中の中うろ
 おかゝあ庵ひゝひぬろあの中

山水 空里 活水 麟哉 美芥 花奥 士口 三木 教之 一樹 一照
 梅季 松止 浪石 浪之 涼月 宵年 玉水 身下 都乾 素吟 春牛

宝川の隈や水戯すあやめさき
子よ傘をさしかけさやとふ根菜
何れやうよめくまねく様種心
橋戸やう川と風ふの一かす
赤土の下跡はく日や栂の花
挨拶は度りえずやゆゆさう
青柳の糸よひうきさうさう
おとのりきもこれの巻う糸
いさうさういさうもあはれ書ひ
袖の中一気や正月もいさあろ
泪出く仙女も音あうかすの中

紫風 刀分 飛雀 似純 大中 海風 樂高 玄通 雪ほ 沌句 松栞

石坐

たりともも巻のうめや日移ひ
管々發松もさうりのそさうふ
長家これやほうさうさうさ
所けや又あうなめく向ひさう
やうさうもさうのさうを栂白ふ
りうさうさうさうさうさう
子をもく結とさうさう柳う糸
あうさうさうさうさうさう
かさうさうさうさうさうさう
菱さうの枝さうさうさうさう

冷二 蟻六 月光 里水 秋禾 返紫丸 紫金 陽樹 退步 一東

伊丹

松ひさしよさうひりちいし川嶽 梅下
鼻のんと梅の下ちち通うけり 香人
すく早よゝ氣うつぬやう文電花 愚山
室川也かさまきうう灯の小云 太良
あここの女のうらみをかひ出さ

おらうほのお持さうくる乃花 雪
さうらよ笑てらひる柳う那 佳松

去年のやよひ松きふ松ひさ

うらまはさきもきううあ松き 清雨
うう袖を人よりのこさて若菜梅 吳趙
餅をさけはまのひらふちや花の子 東壺

えりや花のさうね花ひと川 玉巻園
花のさう樹よりたうや竹一把 烏雪

いさうさおとけさう花の藤 金華
周は花もかりうらよは梅若菜 桑居
雪をたうさうさうさうさうひ 菟白
梅のさう葉もほらもそお白ひ 其棠
酒さうたもみたのりさ接本うふ 葦丹

地福皆あは

ち初やゆうめさうう因の一字 吳佳

